

ティーツーケー株式会社

2018年度 環境経営レポート

(対象期間：2018年9月～2019年8月)



●T2K

発行日： 2019年10月30日

目次

I. 組織の概要	3
II. 環境経営方針	4
III. 環境経営目標及びその実績	5
IV. 環境経営活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容	7
V. 環境関連法規等の遵守状況の評価の結果	8
VI. 代表者による全体の評価と見直し	8

I. 組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
 ティーツーケー株式会社
 代表取締役 栗山 豪利
- (2) 所在地
 本社・本社倉庫 〒710-0145 岡山県倉敷市福江41-4
 水島IC倉庫・事務所 〒710-0146 岡山県倉敷市曾原928-5
 稗田倉庫 〒711-0937 岡山県倉敷市稗田町2617
 江長倉庫 〒712-8031 岡山県倉敷市福田町浦田2653-42
 STOCK倉庫 〒710-0142 岡山県倉敷市林2168-2
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
 責任者 物流事業部長 槇尾 有祐 TEL:086-485-2109
 担当者 管理本部 大澄 尚子 FAX:086-485-3033
 営業部 CS課 角南 加奈
- (4) 事業内容
 出荷代行業、仕入商品(日用雑貨、文房具など)の企画・加工・販売
- (5) 事業の規模
 年間出荷個数 891,000 個(2018年度)
 2018年度売上 93,000 万円

	本社・本社倉庫	水島IC倉庫 事務所	稗田倉庫	江長倉庫	STOCK倉庫
事業活動	出荷代行、 仕入商品の販売	出荷代行 経理・総務・シス テム	在庫保管	在庫保管	在庫保管
従業員(人)	9人	81人+8人	0人	0人	0人
延べ床面積(㎡)	826㎡	11880㎡+99㎡	2071㎡	405㎡	842㎡
拡大時期	登録済み	2021年2月	2021年2月	2021年2月	2021年2月

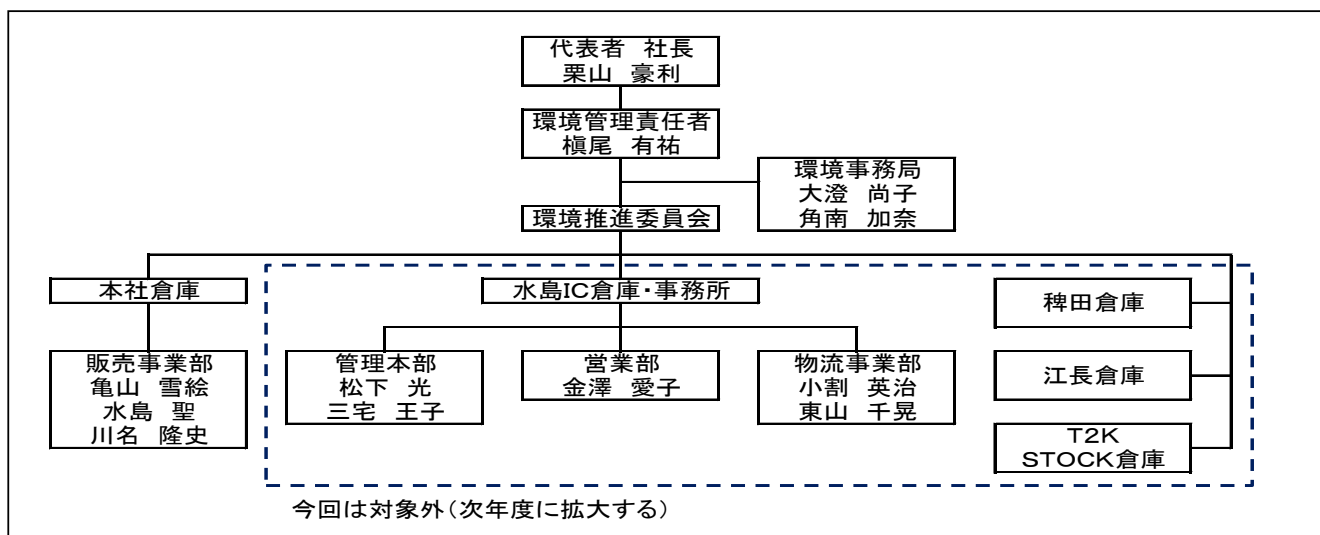
- (6) 事業年度 9月～翌年8月

□ 認証・登録の対象範囲

登録組織名：ティーツーケー株式会社
 対象事業所：本社・本社倉庫
 事業活動：出荷代行業、仕入商品(日用雑貨、文房具など)の企画・加工・販売

対象外：水島IC倉庫・事務所、稗田倉庫、江長倉庫、STOCK倉庫。
 拡大時期：全て、次回審査(2021年2月予定)にて拡大する。

□ 環境経営実施体制



II. 環境経営方針

ティーツーカー株式会社は、ますます深刻化する地球温暖化や今後予想される地下資源の枯渇への対応が人類共通の重要課題と考えており、本業である発送代行という物流の現場を通じて、地球温暖化問題への取り組みや地域の環境活動に自主的・積極的に取り組みます。

活動内容は、環境経営における課題やチャンスを定期的に見直すことで明確にし、効率よく、無駄なく、タイムリーに従業員一丸となって継続的に改善活動に取り組んでまいります。

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 創意工夫による省エネルギーにより二酸化炭素排出量の削減に努めます。
3. 適正な利用により水使用量の削減に努めます。
4. 安心して安全な製品並びに環境に配慮した商品の開発と販売を推進します。
5. 簡易梱包の推進を図り、お客様のところへ届くゴミの削減に努めます。

以上を全従業員に周知徹底いたします。

制定日： 2018年3月1日

改訂日： 2018年6月1日

ティーツーカー株式会社
代表取締役

栗山 豪利

Ⅲ. 環境経営目標及びその実績

(1) 2018年度目標

2017年度(2017.9~2018.8)実績を基準にした。

項目	単位	2017年度 基準年度	2018年度目標	
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	23,050	△1%	22,820
電力	kWh	22,878	△1%	22,649
ガソリン	L	3,089	△1%	3,058
廃棄物排出量				
一般廃棄物	kg	不明	—	実績把握
産業廃棄物	kg	0	—	0
水使用量	m ³	199	△1%	197
環境配慮型商品	個	463	+10%	509

※一般廃棄物は2018年度は実績収集に充てた。

(2) 中期目標

2019年度以降は、2018年度実績を基準年度にする。

項目		年度	2018年度 実績	2019年度	2020年度	2021年度
Ⅰ. 二酸化炭素 排出量削減	kg-CO ₂		18,073	17,892	17,712	17,531
	対基準			△1%	△2%	△3%
電力使用量削減	kWh		17,421	17,247	17,073	16,898
	kg-CO ₂		12,090	11,969	11,848	11,727
	対基準			△1%	△2%	△3%
ガソリン 使用量削減	L		2,577	2,551	2,525	2,500
	kg-CO ₂		5,983	5,923	5,863	5,803
	対基準			△1%	△2%	△3%
Ⅱ. 廃棄物削減						
一般廃棄物 削減	kg		1,033	1,023	1,012	1,002
	対基準			△1%	△2%	△3%
産業廃棄物削減	kg		0.00	0.00	0.00	0.00
	対基準			△1%	△2%	△3%
Ⅲ. 水使用量 削減	m ³		99	98	97	96
	対基準			△1%	△2%	△3%
Ⅴ. 環境配慮型 製品の販売	個		654	719	785	850
	対基準			+10%	+20%	+30%

注) 電力の二酸化炭素排出係数は、0.694kg-CO₂/kWhを使用

(3) 対象期間（2018年度）の実績

項目	年度	対象期間における実績 (2018年9月～2019年8月)				
		基準	目標	実績	達成度	評価
I. 二酸化炭素 排出量削減	kg-CO ₂	23,050	22,820	18,073	126%	○
	対基準		△1%			
電力使用量削減	kWh	22,878	22,649	17,421	130%	○
	kg-CO ₂	15,877	15,718	12,090		
ガソリン 使用量削減	L	3,089	3,058	2,577	119%	○
	kg-CO ₂	7,172	7,100	5,983		
	対基準		△1%			
II. 廃棄物 排出量削減						
一般廃棄物 削減	kg	不明	実績把握	1,033	-	-
	対基準					
産業廃棄物削減	kg	0.00	0.00	0.00	100%	○
	対基準					
III. 水使用量 削減	m ³	199.0	197.0	99.0		○
	対基準		△1%			
V. 環境配慮型 製品の販売	個	463	509	654	128%	○
	対基準		+10%			

注) 基準は2017年度実績

注) 評価欄にて、○：達成、△：やや未達成、×：未達成

(4) 環境目標の達成度評価

- ①CO₂総量 出荷代行の拠点を集約し、業務の効率化を図ったことにより、達成することができた。
- ②電力 在庫管理の見直しにより、電力の使用量は抑えられた。
- ③ガソリン ホームページをリニューアルしたことにより、顧客からの問い合わせが増え、営業による訪問が削減できた。
- ④水 出荷作業の効率化により結果的に水道の使用量も減り、達成できた。
- ⑤販売 カタログの作成などから顧客への認知度が上がり、目標を達成できた。

IV. 環境経営活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

◎よくできた ○まずまずできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	評価結果と次年度の取組内容
二酸化炭素排出量の削減		
・下記の通り。	◎	出荷代行の拠点を集約したことにより、よく達成できた。
電力使用量の削減		
・空調温度の適正化（冷房28℃ 暖房20℃）	○	エアコンが古く温度設定が難しいため、温度計を購入し室温を確認しながら使用した。
・不要照明の消灯	○	作業していないときは倉庫の照明はこまめにきることができた。
		次年度は、倉庫内照明をLEDに変更する。
ガソリン使用量の削減		
・不要なアイドリングストップ	○	エコドライブの成果がでた。
・急加速・急停車の防止	○	安全運転を心がけることができた。
・効率的な移動	○	計画性をもって、移動することができた。
		次年度は、Web会議などを導入し、移動を減らす取り組みをする。
一般廃棄物の削減		
・実態調査	○	順調に実績収集できている。
・来年度以降の目標設定	○	2018年度の実績を把握し、2019年度の目標を設定した。
		次年度は、社内でのペーパーレスを勧める取組をする。
産業廃棄物の削減		
・実態調査	○	今年度は発生していない。
・来年度以降の目標設定	○	今後発生した段階で目標を設定する。
		次年度は、産業廃棄物の廃棄の際に必要な契約書や書類を確認しておく
水使用量の削減		
・節水の周知徹底	○	節水の呼びかけにより達成できた。
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	簡単なポスター等を掲示した結果、意識が向上した。
		次年度は、トイレ用擬音装置の取り付けをします。
環境配慮型製品の販売		
・ホームページでのPR	○	よりアピールできるような商品ページを考えた。
・来年度以降の目標設定	○	今年度の実績を踏まえて、高い目標設定をした。
		次年度は、種類を増やすなど、商品の充実を図る。
その他（次年度の取り組み）		
		SDGsの勉強会を全従業員を対象に行い、業務に反映させる。

V. 環境関連法規等の遵守状況の評価の結果

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	遵守すべき要求事項	遵守評価
浄化槽法	浄化槽の設置の届出、保守点検、清掃、水質定期検査の実施	遵守
廃棄物処理法	保管基準の遵守、収集運搬・処分業者との適正な契約、マニフェストの交付・保存・確認・交付状況等報告書の提出	遵守
自動車リサイクル法	使用済自動車の適正な事業者（引取登録事業者）への引き渡し	遵守
フロン排出抑制法	フロン類使用機器の定期点検と記録、漏洩防止、廃棄時の適切な処理	遵守
消防法	(防火対象物) 防火管理者の届出、消防計画の作成、避難訓練の実施、消火設備・火災警報設備の点検整備、避難設備の維持	遵守

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていることを確認しました。

なお、環境法規制等への違反、訴訟、環境上の苦情等も過去3年間ありません。

VI. 代表者による全体の評価と見直し

当社は良い地球環境や自然環境を次世代に残すための取り組みの大切さを社員全員が認識し、エコアクション21に取り組んで来ました。

しかしながら、環境推進委員の間では活発な意見の交換、勉強会などを開催していますが、一般社員や非正規社員への徹底はまだ不十分であります。

節電、節水、エコドライブなどの省エネについての取り組みはもちろん、環境に配慮した商品の取扱を増やし、広くアピールしていくとともに、環境活動に貢献していく必要があります。

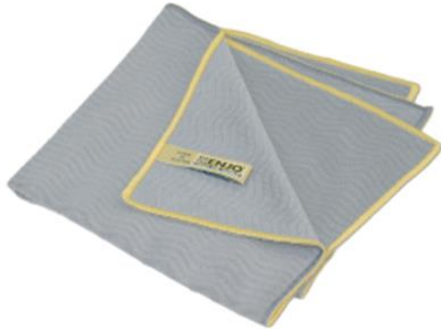
全体としては、少しずつではありますがエコアクション21の活動が浸透し、省エネを意識した結果、目標を達成できているので、評価できると考えます。

エコアクション21の活動を全従業員へ周知させるため、SDGzの研修会を2019年度において企画・実施します。

2019年10月15日

代表取締役 栗山 豪利

【環境に配慮した取り扱い商品】



マイクロスター（アウトドア用）は、超極細ファイバーからできているため、吸水性に優れており、また軽い汚れも水だけで落とします。

ENJO クレンジングの新常識
水とパフだけの洗顔！



環境保護のための革命的製品として金賞を受賞



いつものコーヒーをもっとオシャレにもっとエコに

土の中で分解可能なオーガニックのバンブーファイバー（竹の繊維）、コーンスターチ、アミノ酸由来の樹脂などから出来ています。



環境にも配慮し、80%リサイクル素材で製造されています。

自社商品販売ショップサイト

PARCELA [パルセラ]

<https://www.parcela.jp/>

SYMPL [シンプル]

<https://www.rakuten.ne.jp/gold/fsapo/>